

World Tourism Update

Bimonthly Newsletter of Tourism Education & Research

WTU No.10 / 2015.4

UNWTO, WTTC —2 機関を中心とした観光教育、研究に関わる世界の情報—

Over 1.1 billion tourists travelled abroad in 2014



最新の UNWTO 世界観光指標(World Tourism Barometer)によると、2014 年の国際観光客到着数は前年比 4.7%増の 11 億 3,800 万人に達した。UNWTO 長期予測では、2015 年の国際観光客到着数は 3%~4% 増加し、世界経済の回復に更に貢献することが予測される。

2014 年の国際観光客到着数(宿泊者)は、2013 年から 5,100 万人増加し、11 億 3,800 万人に達した。これは前年比 4.7%の増加であり、2009 年の経済危機以降 5 年連続で平均成長率を上回った。地域別では、米州(7%増)、アジア・太平洋(5%増)が最も強い成長を示し、一方でヨーロッパ(4%増)、中東(4%増)アフリカ(2%増)がやや緩やかな成長であった。準地域では、北アメリカ(8%増)が最大の成長を示し、

北東アジア、南アジア、南・地中海ヨーロッパ、北ヨーロッパ、カリブ海がそれぞれ 7%の増加でこれに続いた。

近年の動向をみると、2014 年の国際観光収入の伸びは、国際観光客到着数の増加にほぼ比例すると見込まれている(2014 年の国際観光収入実績は、2015 年 4 月に発表を予定)。2013 年の国際観光収入は、1 兆 1,870 億米ドルとなり、世界経済危機前の 2008 年から 2,300 億米ドルの増加となった。UNWTO の長期予測によると、2015 年の国際観光客到着数は、3%~4%増加することが見込まれている。地域別では、アジア・太平洋地域(4%~5%増)及び米州(4%~5%増)が力強く成長し、これにヨーロッパ(3%~4%増)が続いた。アフリカでは 3~5%の増加、中東では 2%~5%の増加が見込まれている。

リファイ事務局長は、「前途に多くの課題が存在するものの、世界経済の状況の回復と共に 2015 年における観光需要は引き続き高まるものと期待している。プラス要因としては、石油価格が 2009 年以降これまでにないレベルまで下がったことがある。これは石油の輸入国における購買力及び民間需要を高め、輸送費が軽減し経済を成長させるだろう。しかし、堅調な観光送客市場とされる石油輸出国にとってマイナスの影響を与える可能性もある。」と述べている。2015 年の前向きな見通しは、UNWTO 指数(Confidence Index)で確認されている。世界各国の 300 名の観光専門家たちは、同指数について 2015 年の観光は 2014 年ほど楽観的ではないものの成長することを期待している。

<http://media.unwto.org/press-release/2015-01-27/over-11-billion-tourists-travelled-abroad-2014>

Research and Journals —主な論文、特集号、新刊紹介—

旅先での出会い・恋愛・性的行動に関する研究

旅先での出会いや恋愛、性的行動に関する研究といえば、男性による東南アジアなどでのセックス・ツーリズムを思い浮かべる人が多いかもしれません。このような研究は 1980 年代以降活発に行われてきましたが、現在では、男性に限らず、女性の旅先での出会いや恋愛、性的行動に焦点を当てた研究の蓄積も進んできています。男性のセックス・ツーリズムをテーマとする既存の研究においては、女性に対する性的搾取といった問題点に主眼が置かれていましたが、女性の旅行先での出会いや恋愛、性的行動に関する研究では、女性の自立やエンパワーメントなど、肯定的な側面を強調する傾向がみられます。しかし、男性の旅行先での性的行動は搾取につながるもので、女性の場合は女性自身のエンパワーメントになるという見方をするとしたら、これは少々一方的すぎるでしょう。女性の旅先での相手との関係は、2 人の経済的地位や文化の違いによる影響によって大きく異なり、複雑な様相を呈しています。これがどういうものなのか、この分野に関心のある方は、まずは Ben-Gurion 大学(イスラエル)の研究者 Yaniv Poria の文献を読まれることをお勧めします。Poria の研究は、女性の旅に限らず、同性愛者の旅やレジャーと幅広く、旅先における出会いや恋愛、性的行動についての見識を大きく広げてくれることでしょう。日本語では、大橋昭一他編『観光学ガイドブック』(ナカニシヤ、2014 年)の「ジェンダー」の章で、このテーマを扱っていますので、ぜひ一読下さい。

(執筆 吉田道代教授)

「Charitable Partnerships among Travel and Tourism Businesses: Perspectives from Low-Fares Airlines」

F., Emily and C., Tim, International Journal of Tourism Research, 2011. vol. 13. pp. 337-354



Responsibility(責任/責務)は観光の統治と管理を考える上で重要な概念となっているが、ステイクホルダーに注目した経験的かつ広範囲な調査は十分とは言えない。

また、近年の貧困問題やエンパワーメントに対する取組のように、様々なステイクホルダー(個人であれ、協働であれ)による活動を通して、観光は社会変革における有力なファクターとなっている。しかしながら、観光ビジネスとコミュニティや市民との相互作用、また、観光ビジネスの形態や機能における彼らの役割など、観光分野の慈善・奉仕活動に関する調査が広範囲に行われていない。商業的には企業の社会貢献活動とマーケティングは企業のイメージとブランド力を向上させ、販売力を高めるために有効な手段となっている。チャリティー活動に

関わる企業にとって、モチベーションや期待はそれぞれ明確に異なる。ある会社は心の中で、参加する慈善活動の目的と大きく異なった目標を持っているかもしれないし、活動に対して異なった理解をしているかもしれない。

そのため、この論文は英国の低運賃航空会社(LFAs)における、企業の社会的責任(CSR)活動のチャリティー・コンポーネントの調査をすることにある。持続可能な開発においてLFAsの役割を見直すことが重要であることを示唆する。彼らの自主的な慈善活動を通じ、潜在的な観光目的地の持続可能な開発に向け、より広範かつ、永続的な活動を創造しなければならない。他のセクターで開発された概念フレームワークは、CSR研究の広域観光旅行の経験的調査に向けた重要な分析を提示している。

(執筆 M1 王雅丹)

<http://onlinelibrary.wiley.com/doi/10.1002/itr.854/epdf>

Conferences, Seminars —世界各地の主な学会(CFP情報)、セミナー—

- **2015/6/7 - 11 The Euro-Asia Tourism Studies Association (EATSA) Inaugural Conference, Taipei & Hualien, Taiwan**



概要：本学会は、ヨーロッパ、アジアにおけるアートの位置付けと、それに対する観光やホスピタリティ、余暇マネジメントの適用について、研究者や観光従事者が情報交換を行う国際的な議論の場を提供する。

CFP：発表要旨 2015/3/31
フルペーパー 2015/4/17
参加申込 2015/4/30

<https://sites.google.com/site/eatsa2015taiwan/>

- **2015/6/18 - 20 TOURAVEL '15 (International Tourism and Travel Studies Conference), Istanbul, Turkey**



概要：本学会では、様々な分野の研究者が現代社会における旅行・観光について、多様な、そして分野横断的な視点から議論を行うことを目的としている。

CFP：発表要旨 2015/4/3
フルペーパー 2015/5/15
参加申込 2015/5/8

<http://www.touravelconference.org/>

- **2015/7/12-14 Contemporary Perspectives in Tourism and Hospitality Research, Eastbourne, UK**



概要：本学会においては、現在、観光やホスピタリティの分野で研究対象となっている領域について、その価値を高め、また知識を獲得していく手助けとなるような闊達な議論が行われる。このような場は、観光やホスピタリティが現在直面している課題に対し、産業界、政治家、NGOや研究者などの多様な主体が協働し、実践的かつ革新的な解決法を導出していく上で、非常に重要な役割を担うものである。

CFP：発表要旨 締切済
フルペーパー —
参加申込 2015/6/30

<http://about.brighton.ac.uk/sasm/research/researchevents/contemporary-perspectives-in-tourism-and-hospitality-research-policy-practice-and-performance/>

Magazine —世界で発行されている観光雑誌を紹介—



「Wanderlust (Travel magazine)」

Wanderlustは冒険的で文化的な特別な旅行を特集するイギリスの旅行雑誌。年に10回刊行される。Wanderlustにおける年間写真コンペが行われ、そのほとんどがアマチュアやプロを目指す人々が参加している。2010年からは、執筆や撮影を目的としたツアー事業を開始している。

<http://www.wanderlust.co.uk/>

★ **4月2日から高野山開創1200年記念大法会** (2015.3.18. 産経ニュース)



高野町の高野山真言宗総本山・金剛峯寺は、4月2日から5月21日までの開創1200年記念大法会の内容を発表した。初日は開白法会のほか、約170年ぶりに再建された壇上伽藍中門の落慶法要が営まれ、大相撲の白鵬ら3横綱の奉納土俵入りがある。

期間中、壇上伽藍大塔に大日如来などを3D映像で投影する「高野山1200年の光―南無大師遍照金剛―」、秘仏の特別開帳なども予定されている。開創1200年記念大法会は、弘仁7(816)年に弘法大師・空海が高野山に密教の道場を開いて1200年目を迎えたことを記念して開催。4月11日には阪神大震災

や東日本大震災の犠牲者を追悼する災害物故者追悼法会、5月19日には開山以来初めてとなる天台宗総本山・比叡山延暦寺の僧による「慶讃法会」が営まれる。壇上伽藍大塔への3D映像の投影は、同12~17日午後7時20分と同8時10分に声明と合わせて行われ、境内は幻想的な雰囲気にも包まれる。詳細については金剛峯寺公式サイトをご確認ください。(<http://www.koyasan.or.jp>)

<http://www.sankei.com/region/news/150318/rgn1503180023-n1.html>

★ **旅行消費も大幅増 14年訪日客総額は2兆円超** (2015.2.16. 日刊トラベルニュース)

観光庁がこのほど発表した2014年の訪日外国人旅行者の消費動向調査の年間値(速報)によると、訪日外国人旅行消費の総額は前年比43.3%増の2兆305億円だった。1人あたりの旅行消費額も同10.7%増の15万1374円と躍進し、いずれも過去最高を記録した。大幅な増加は、訪日客が続伸し1300万人を突破したことに比例するもので、総額は前年と比べて6千億円超も増加。観光立国を掲げ、国の成長分野としての観光の存在感を大きく高める数字といえそうだ。

国別では1位が中国の5583億円、2位が台湾の3544億円、3位が韓国の2090億円で以下、米国、香港と続く。各国が軒並み前年を上回ったが、なかでも中国は同102.4%増と前年から倍増を記録している。旅行消費額を費目別にみると、買い物費7142億円が全体の35.2%を占めてトップで、その割合は年々増加しており、前年1位の宿泊費を抜いた。宿泊費の割合は前年より3.6%減と数字を下げており、FITの増加やビザ緩和などで訪日旅行の形態が変化していることもあるが、宿泊費を抑えて買い物や飲食などで旅行内容の充実を図る傾向がみられる。

<http://www.travelnews.co.jp/news/inbaund/1502161002.html>

★ **中国観光客の日本での「春節」** (2015.3.4. Livedoor news)

「春節」という言葉、近年世界中に注目されるようになってきている。2014年中国人観光客は消費が5600億円に達し、2015年の春節はさらに「爆買い」した。ならば、今中国人観光客はどのようなものに注目しているかというところ、「炊飯器」と答える人がたくさんいるだろう。実は、今炊飯器以上に人気を感じさせるのがステンレスボトルだ。中国人は温かく飲み物を飲む傾向が強く、高性能な日本製のステンレスボトルは日本より寒い地域で、温かいものを飲む頻度の高い中国人には、日本人以上に価値があると思われる。他にブランド腕時計の人気が出てきて、純正品の魅力も中国人にとっては無視できない。

今年の春節期間中、洗浄便座は中国消費者の新しい目当てになった。健康食品、日本製の薬、お菓子まで飛ぶように売れた。大阪のツルハドラッグ道頓堀店では、2015年の春節時期に過去最高の売り上げを記録している。今の時点では、次の中国人観光客の「爆買い」は次の大型連休と推測されている。このまま行けば、2015年の訪日外客数は1500万人を突破することは容易だろう。

(観光学研究科 M1 朱 柏松)

<http://news.livedoor.com/article/detail/9848519/>

<http://business.nikkeibp.co.jp/article/interview/20150226/278021/>

★ **関西から九州への観光ルート「西遊紀行」に外国人誘客へ、9自治体とJRなど官民連携で取組み開始** (2015.3.5. トラベルボイス)



観光立国実現に向けたアクション・プログラム 2014「地域連携による情報発信と新たな観光周遊ルートの形成」を踏まえ、関西から九州への観光ルートの整備と認知度向上に向けた、官民連携の取組みが開始された。山陽新幹線全線開業40周年にあわせ、西日本旅客鉄道と四国旅客鉄道のほか、域内の国土交通省の各地方運輸局、岡山県、広島県廿日市市など9自治体、新関西国際空港などが連携しながら取り組む。

山陽・瀬戸内地域は多様な観光資源があるものの、海外での知名度は他エリアよりも低く、外国人旅行者の宿泊数も少ない状況にある。そこで、関西から球種への観光ルートのブランド名を、西日本をもっと旅してもらおうというメッセージを込めて

「西遊紀行」に決定。東南アジアとフランス、香港を主要ターゲットに、まずは第1弾として瀬戸内地区の観光資源やルート整備、商品化やプロモーション、海外旅行会社の招聘などを展開する。今後は関西空港のほか福岡空港からの瀬戸内周遊ルートの作成なども予定している。

<http://www.travelvoice.jp/20150305-38321>

★ 史上最大ダイヤ改正、「さよなら」と「ありがとう」（2015.3.14. マイナビニュース）



2015年3月12日寝台特急「トワイライトエクスプレス」の札幌行き最終列車が大阪駅を出発した。「トワイライトエクスプレス」は1989年7月21日、大阪～札幌間を日本海沿いに結ぶ団体臨時列車として運転を開始された。全体走行距離約1500km、所要時間22時間台で、臨時列車を含めた場合は日本一長い距離を走る旅客列車であった。展望室付きの2人用個室「スイート」やサロンカーを設けており、本番のフランス料理を味わえることができ、豪華な寝台列車として人気が高かった。3月14日の北陸新幹線開業に伴うダイヤ改正を気に廃止されることが決まり、3月12日発の列車で運行を終了することになった。

「トワイライトエクスプレス」だけではなく、JR北陸本線系タで運行された特急「はくたか」、「北越」も13日に最終運行日を迎え、金沢駅にてラストラン・ありがとうイベントが開催された。

（観光学研究科 M1 朱 柏松）

<http://news.mynavi.jp/news/2015/03/14/006/>

<http://response.jp/article/2015/03/12/246425.html>

★ 訪日向け「国際おもてなし認証」制度開始、サービス事業対象に（2015.3.4. Travel Vision）

日本ホスピタリティ推進協会（JHMA）は「国際おもてなし認証制度」を発足し、4月から認証受付を開始する。同制度は訪日外国人を中心とした顧客に的確なホスピタリティを実践している店舗や施設を認証するもの。サービス業が対象で、1年目で100施設、3年目で500施設、2020年の東京オリンピック・パラリンピックまでは1000施設の認定をめざす。制度では応募店舗・施設のコンサルティングなどをおこない、一連の認証制度を通して国際的なホスピタリティ・マインドの醸成をめざす。ドン・キホーテグループのジャパンインバウンドソリューションズ（JIS）や、覆面調査を手がけるMS&Consulting、高島屋グループで人材サービスを提供するセンチュリーアンドカンパニーとの協力のもと、認証制度を進めていく。

認証対象施設は、JHMAの「グローバル・ホスピタリティ・コーディネータ（GHC）」資格取得者、もしくはGHC資格取得者による講習を受けた「グローバル・ホスピタリティ・アソシエイト（GHA）」が最低1名在籍していることが条件。GHCはJHMAの「ホスピタリティ・コーディネータ（HC）」の訪日観光対応版として今回新設する制度で、HC資格取得者が対象。3月14日から募集を開始する。HCは2日、GHCは1日、GHAは半日から1日ほどで取得できる。認証した店舗・施設についてはウェブサイトで紹介。海外向けの制度の認知度向上策としてインターネットを活用するほか、認定店舗・施設自体の海外への情報訴求にも期待を寄せる。また、経済産業省や観光庁、文部科学省などに対しても制度の説明をおこなっており、引き続き国内外でのアピールをおこなっていくという。

<http://www.travelvision.jp/news-jpn/detail.php?id=66084>

★ ホテルでバリアフリー度が高い国ランキング、トップは米国、アジア圏ではシンガポールが上位に Agoda.com（2015.4.3. トラベルボイス）



アジア大手のホテル予約サイト「アゴダ（Agoda.com）」はこのほど、サイト上に掲載されているホテルを対象とした「世界のホテルのバリアフリー度」を調査した。それによると、バリアフリー度が最も高いのは米国（77%）で、2位はアラブ首長国連邦、アイルランド、ポルトガル（同率55%）だった。アジア圏内での最高は、総合結果18位のシンガポールとなっている。

同社ではホテルのバリアフリー度合いに影響を与える要因として、現地の法律や条例、利用者層、さらにホテルの築年数などがあると分析。たとえばアラブ首長国連邦では新築ホテルが多数あり、その多くがバリアフリーに対応していた。また、ポルトガルの都市ファティマ、スペインのウエルバ県、フランスの町ルルドなど、聖地巡礼をはじめ宗教に関わりの深い観光地のホテルもバリアフリー対策に積極的だったとしている。なお、

今回の調査は、Agoda.comサイトに100軒以上のホテルが掲載されている国を対象に実施したもの。バリアフリー対応状況のデータはホテル側から自己申告をもとにした。

<http://www.travelvoice.jp/20150403-39697>

和歌山大学 観光学部 観光教育研究センター

Location: 観光学部研究棟 208

Contact us: tourism-er@center.wakayama-u.ac.jp

<http://www.wakayama-u.ac.jp/tourism/tourism-er.html>